

LAST CHANCE FOR GP & QC CHALLENGE CUP



27th
5G
チャレンジカップ

11th
6G
レース
チャレンジカップ



11/19(火) ▶ 24日(日)ボートレース下関

表1 10月31日時点の獲得賞金ランキング

賞金順位	CC順位	登番	選手名	獲得賞金額	賞金順位	CC順位	登番	選手名	獲得賞金額
1	1	4262	馬場 貴也	138,790,833	26	19	4524	深谷 知博	56,151,000
2	2	4238	毒島 誠	118,547,500	27	20	4350	篠崎 元志	54,540,532
3	—	4444	桐生 順平	118,277,333	28	21	4502	遠藤 エミ	52,762,000
4	3	4320	峰 竜太	95,820,333	29	22	3897	白井 英治	52,741,500
5	—	4418	茅原 悠紀	93,637,333	30	23	4787	椎名 豊	52,675,000
6	4	4337	平本 真之	92,600,466	31	24	4586	磯部 誠	52,611,333
7	5	3960	菊地 孝平	92,298,000	32	25	4168	石野 貴之	50,949,466
8	6	3941	池田 浩二	84,609,000	33	26	4939	宮之原輝紀	50,574,466
9	7	4851	関 浩哉	83,877,760	34	27	3942	寺田 祥	50,452,000
10	8	5121	定松 勇樹	81,877,000	35	28	3716	石渡 鉄兵	49,885,006
11	—	4371	西山 貴浩	80,604,333	36	29	4503	上野真之介	49,500,666
12	9	4445	宮地 元輝	80,159,333	37	30	4044	湯川 浩司	48,827,500
13	10	4362	土屋 智則	79,735,333	38	31	3978	齊藤 仁	48,433,070
14	11	3415	松井 繁	78,395,000	39	32	4760	山崎 郡	47,516,866
15	—	4719	上條 暢嵩	74,217,000	40	33	3946	赤岩 善生	46,501,519
16	—	4205	山口 剛	72,898,333	41	34	3590	濱野谷憲吾	45,595,333
17	12	3783	瓜生 正義	68,872,999	42	35	4494	河合 佑樹	45,567,000
18	—	4686	丸野 一樹	67,784,833	43	—	3779	原田 幸哉	45,265,333
19	13	4573	佐藤 翼	62,487,000	44	36	3959	坪井 康晴	45,252,000
20	14	4030	森高 一真	61,733,266	45	37	4397	西村 拓也	45,229,000
21	15	3854	吉川 元浩	60,963,666	46	38	4364	池永 太	44,616,000
22	16	4504	前田 将太	60,428,333	47	39	4013	中島 孝平	44,582,426
23	17	4459	片岡 雅裕	58,100,666	48	40	4166	吉田 拓郎	44,517,733
24	18	4685	島村 隆幸	57,640,000	49	41	4266	長田 頼宗	43,995,500
25	—	4932	新開 航	56,990,000	50	42	4497	桑原 悠	42,216,466

※灰色の選手はチャレンジカップF休み



グランプリとクイーンズクライマックスへの道もいよいよ佳境へ。賞金を上積みする最後のチャンスとなるチャレンジカップ。今年の舞台は7年ぶりに下関に帰ってきた。ボウダー下からの逆転出場、より有利な立場で最後の決戦を迎えるために...。それぞれの思惑を胸に、激しいバトルが繰り広げられる!



Road to THE GRAND PRIX—グランプリへと続く、激しい争いもいよいよ最終段階へと突入する。18人の枠に入るため、ベスト6で2ndからの出場を目指すため、2nd初戦の1号艇を狙うため...、日々刻々と状況が変化の中で争われるド熱い戦いがここにある!

表2 ベスト6入りを目指す

賞金順位	CC順位	登番	選手名	年間勝率
1	1	4262	馬場 貴也	7.45
2	—	4444	桐生 順平	7.72
3	2	4238	毒島 誠	7.95
4	3	4320	峰 竜太	8.49
5	—	4418	茅原 悠紀	7.65
6	4	4337	平本 真之	6.99
7	5	3960	菊地 孝平	7.33
8	6	3941	池田 浩二	8.07
9	7	4851	関 浩哉	7.38
10	8	5121	定松 勇樹	7.03

※年間勝率は24年1月1日～10月27日までのもの

今年のボートレース界をリードしてきた面々がグランプリ2ndからの出場を目指し、ベスト6を狙う。今年SGで3優出しているのは10月末時点で獲得賞金額トップの馬場貴也をはじめ桐生順平、毒島誠、平本真之の4人。桐生はF休みにより今大会は不出場なので、グランプリのトライアル2ndの1戦目で1号艇有力候補となっていくのは馬場と毒島だ。下関との相性を見ていくと、馬場は22年周年で3コースから大きく差してV、毒島は17年に当地で

GROUP 1

ベスト6を狙う!
今年を
リードしてきた
レーサーたち

ポーター下からベスト6入りを目指すのは関浩哉、定松勇樹の若手両雄。関は9月にヤングダービーで優勝、10月のダービーでも優出と勢いに乗る。当地は昨年、ヤングダービーで優出2着と成績は残している。定松は今年1月の周年ではエンジン調整に苦戦していたが、その後の経験でどこまで成長した姿を下関のファンに見せられるか。若手の躍進という今年の潮流の中心にいた両者の真価が問われる一戦となる。

両者を追う峰竜太と平本が今大会での逆転トップ2入りを狙うことになる。峰は過去3年、当地の出走がないのは気がかりだが、18年周年では優勝しているので問題ないか。一方の平本は、当地でそれほど実績は残しておらず、近況もリズムに乗り切れていない。勢い面でマイナス評価とせざるを得ない。

行われたチャレンジカップで優勝と双方ともに結果は残してきた。壁は大きそうだ。

成長した姿を見せたい定松



LAST CHANCE FOR GP & QC CHALLENGE CUP

表3 ボーダーを巡る争い

賞金順位	CC順位	登番	選手名	年間勝率
11	—	4371	西山 貴浩	7.58
12	9	4445	宮地 元輝	7.28
13	10	4362	土屋 智則	7.13
14	11	3415	松井 繁	7.54
15	—	4719	上條 暢嵩	7.71
16	—	4205	山口 剛	7.55
17	12	3783	瓜生 正義	7.36
18	—	4686	丸野 一樹	7.25
19	13	4573	佐藤 翼	7.17
20	14	4030	森高 一真	6.90

※年間勝率は24年1月1日～10月27日までのもの

10月末時点でグランプリ出場が濃厚と見られるのは7800万円以上を稼いでいる14位の松井繁までか。ちなみに昨年グランプリに18位で出場を決めた菊地孝平は、チャレンジカップ終了時で約6927万円だった。今年は大いビー終了時点で7千万円以上稼いでいる選手がすでに16人おり、ボーダーは大幅に上がる見込みだ。当地66周年(20年)覇者の瓜生正義は今年の当地周年、22年のボートレース甲子園でも優出しており相性の良さが際立つ。10月末時点で賞金ランクは17位。2年ぶり17

10月末時点でグランプリ出場が濃厚と見られるのは7800万円以上を稼いでいる14位の松井繁までか。ちなみに昨年グランプリに18位で出場を決めた菊地孝平は、チャレンジカップ終了時で約6927万円だった。今年は大いビー終了時点で7千万円以上稼いでいる選手がすでに16人おり、ボーダーは大幅に上がる見込みだ。当地66周年(20年)覇者の瓜生正義は今年の当地周年、22年のボートレース甲子園でも優出しており相性の良さが際立つ。10月末時点で賞金ランクは17位。2年ぶり17

GROUP 2

ボーダー争いは
熾烈極まる!
グランプリ出場を
かけた激しい攻防

GP初出場目指す佐藤



回目のグランプリ出場に向け、開催でも安定した活躍を見せてくれそう。

10月末時点で賞金ランク15位の上條暢嵩、16位の山口剛、18位の丸野一樹がチャレンジカップにはF休みで不出場なので、ボーダー下の選手にとってはチャンスが広がる。

ダービー優出2着で一気に賞金ランクを上げた佐藤翼はグランプリ初出場に向け気合い満点の走りを見せる。10月はダービー前の若松周年でも2号艇で優出しており、近況のリズムはかなり良い。森高一真も逆転ボーダー入りの有力候補だが過去3年、出走歴がないのが少しに気になるところではある。

10月末時点で17位の瓜生と19位の佐藤、20位の森高との差はチャレンジカップの優出6着の賞金7800万円を逆転可能な状況にある。これがレース時にどうなっているか注視したい。

表4 逆転一発を狙う!

賞金順位	CC順位	登番	選手名	年間勝率
21	15	3854	吉川 元浩	7.55
22	16	4504	前田 将太	7.35
23	17	4459	片岡 雅裕	6.78
24	18	4685	島村 隆幸	7.13
26	19	4524	深谷 知博	6.91
27	20	4350	篠崎 元志	7.23
28	21	3897	白井 英治	7.30
29	22	4787	椎名 豊	6.95
30	23	4586	磯部 誠	7.00
31	24	4502	遠藤 エミ	7.23
32	25	4168	石野 貴之	6.57
34	27	3942	寺田 祥	6.97

※年間勝率は24年1月1日～10月27日までのもの

チャレンジカップで優出以上が必要となりそうな選手たちにも触れていこう。昨年のグランプリ出場組からは片岡雅裕、深谷知博、磯部誠、石野貴之がボーダーからかなり下にいる。彼らにとってはチャレンジカップがまさに勝負駆けとなる。片岡、深谷、磯部の3人は過去2年連続でグランプリに出場している。3年連続出場をかけた、初日から予選上位を狙い取りこぼさないレースが続くことになる。この3人の中では22年の全国モーターボート甲子園で優勝してい

GROUP 3

デッドオアアライブ!
ボーダー下から
大逆転狙い
虎視眈々

下関との相性○の深谷



深谷が下関での実績では一枚上と言えそう。

そして昨年のグランプリ覇者の石野。今年はこちらまでピリツとしなかったが、過去にチャレンジカップでは2回の優勝歴があり、決して侮ることはできない。今年と同じくナイターで行われた19年桐生チャレンジカップでは、得点トップからの王道優勝を果たしている。この時期のナイターは日中のレースと日没後で気温が大きく変わることも多い。調整力が求められるだけに、実績のある石野がどこまで仕上げてくるか。

チャレンジカップの選出順位15位と16位の吉川元浩、前田将太は近況の調子がやや物足りない。ただし吉川は07年に当地53周年を勝っているし、20年のSGメモリアルなど当地での優出も多く、下関との相性は良さそう。今年の序盤戦は獲得賞金額で上位にいた島村隆幸や篠崎元志はここは優勝条件となりそう。果たして序盤の勢いを取り戻すことができるか!?



SG 27th
チャレンジカップ

抜群の戦績を残す地元の両雄 寺田祥、白井英治を追うのは 馬場貴也、瓜生正義ら

ナイター開催への移行後、下関では17年チャレンジカップ、20年メモリアルと2回のSGが行われてきた。7年前、今回と同じチャレンジカップを制したのは毒島誠。自身にとって2度目のSGタイトルで、ナイターSG巧者の異名を決定づける優勝だった。

そして4年前、メモリアルで優勝したのが寺田祥。こちらも自身にとって2度目のSG優勝。そしてうれしい地元SG制覇だった。

この時の寺田は予選を11121で終え、準優、優勝戦も圧倒。まさに地元の雄にふさわしい走りファンへの期待に応えた。

白井英治は通算118回の優勝（※24年10月末時点）の内、25回が下関。GI優勝も3回ある。18年徳山グラチャンで、地元SG優勝は果たしているが、下関でのSG優勝へのモチベーションは、白井が一番高いのではないだろうか。

寺田も白井もグランプリに出場



するためには優勝が条件となりそう。今村豊さんの想いを引き継ぐ両雄が、地元SGを盛り上げることは間違いない。

他に当地巧者として挙げられるのは馬場貴也と瓜生正義。2人も当地周年覇者だ。基本的にはインが強い水面ではあるが、逃げ以外の決着は特に偏りもなく、柔軟なレースが持ち味の両者にはいかにも合いそう。馬場はグランプリ前に抑えることも考えられるが、ボーダー争いの瓜生はここで少しでも賞金を加算したいだろう。

2年前のボートレース甲子園、優勝戦には今回のチャレンジカップに出場する5選手が優勝戦に進出している。深谷知博にとってはその時の再現といきたいが、賞金ランク上位者が、今年の勢いそのまま押し切るか、下位からの一発逆転があるのか、熱い、熱いバトルを刮目して待て！

表5 下関の最近のSG・GIで優出している今回の出場選手

年月	タイトル	G	優出選手(今回の出場者)
2020.3	65周年記念	GI	①白井英治、④吉川元浩
2020.4	66周年記念	GI	①瓜生正義、②馬場貴也、③峰竜太
2020.8	第66回ボートレースメモリアル	SG	①寺田祥、③菊地孝平、⑤白井英治 ⑥吉川元浩
2021.2	第65回中国地区選	GI	①寺田祥
2021.3	67周年記念	GI	①松井繁、③馬場貴也、④毒島誠
2022.7	第4回全国ボートレース甲子園	GII	①深谷知博、②馬場貴也、③佐藤翼 ⑤瓜生正義、⑥白井英治
2022.12	68周年記念	GI	②石野貴之
2023.9	第10回ヤングダービー	GI	⑤関浩哉
2024.1	69周年記念	GI	②寺田祥、④瓜生正義



LAST CHANCE FOR GP & QC CHALLENGE CUP

地元番記者が厳選

注目モーターを丸裸に!!

48 号機	評価 A	20 号機	評価 A	17 号機	評価 A	11 号機	評価 S	66 号機	評価 S
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
42.8%	→	38.2%	↑	43.5%	↑	43.9%	↓	44.6%	→
4月に藪内瑞希がセット交換してからは見違える足に。優勝こそないが、その後もバランス良く仕上がる良機。		7月に近江翔吾が整備し全体を上位クラスに仕上げて準V。優出はこの1度のみだが伸びは上位クラスになる。		9月に藤原碧生が回り足を仕上げて優勝し、そこからは上昇カーブを描いている。出足、伸びとも良好。		当地では最多の3回の優勝歴がある。5月に杉山正樹がセット交換を施してからは上位クラスの噴きを見せる。		優勝は6月の柳生泰二の1回のみだが、初降ろしから乗り手を選ばず好パワーを発揮。伸びは上位に仕上がる。	

36 号機	評価 B	45 号機	評価 B	56 号機	評価 A	69 号機	評価 A	49 号機	評価 A
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
37.9%	↑	38.6%	→	36.6%	↑	44.2%	→	37.4%	→
9月に為本智也が大整備を施した。それを乗り継いだ小坂尚哉は上位足を披露。続く野中一平も優勝と急上昇。		地元の海野康志郎が平凡機を必死の整備を繰り返して優勝した。その後の動きも軽快で中堅以上には仕上がる。		4～8月は上位の動きを見せたが、9月以降は低迷。ただ、10月に渡邊和将が立て直し復活の兆しを見せる。		11、66号機と並ぶSランクだったが中だるみ。しかし、10月に中村晃朋が整備を施し再び上昇してきた。		7月に宮田龍馬が整備を施してから上昇。9月には山本隆幸が全体に良好な足でV。行き足は上位クラス。	



エース機はハイパワー66号機と当地最多3Vの11号機。17、48、49号機も急上昇

当地のエンジンは3月に初降ろし以降、10月26日現在で24節が経過した。それぞれ15〜19節使用されており、エンジン相場はほぼ固まったと言える。

その中で、エースと呼ばれるのは66、11号機の2機だ。

66号機は優勝こそ6月に地元の柳生泰二が成し遂げた1回だけだが、初降ろし時に中村日向が「これはエース機になりますよ」との証言通り、その後も伸びを中心にハイパワーを誇っている。また、いわゆるセット交換がなされていない純正品であることも大きなポイントだ。

11号機は使用2節目に君島秀三が優勝したが、その後は落ち目となり、ワースト級の評価。ただ、5月に杉山正樹がセット交換を施

すと、見違える舟足に仕上げている。8月には柳内敬太が節一足で優勝するなど、当地では最多となる3Vを挙げている。

この2機に続くのが17、48、49号機だ。17号機は9月に藤原碧生が優勝して以降、本格化。出足、伸びどちらに振っても上位クラスに仕上がる。48号機は4月に藪内瑞希がセット交換してから急上昇。こちらも出足、伸びともにバランス良く仕上がる良機だ。49号機は9月に山本隆幸が優勝、10月には宇佐見淳が準Vし、上昇度は群を抜く。

その他では7月に近江翔吾が仕上げから伸びは良好な20号機、海野康志郎が整備で別物にした45号機も注目だ。

(西日本スポーツ・岡部)